

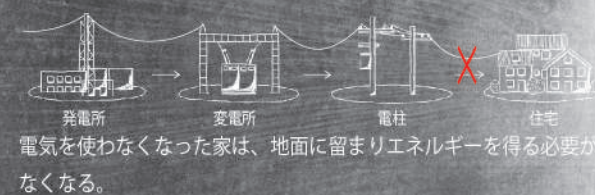
月の家

電気を使わないということ=(電力)インフラから脱却し、夜は闇に包まれるということ

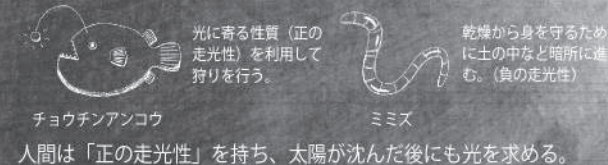
家は、場所から開放され、光を希求し空へと昇る。そんな家は光を宿す“月”となり大地を照らす存在となる。惑星の公転に合わせて漂う家は、大地の時間から開放され、自ら時間を選び取る。

そんな場所・時間から開放された“月の家”を提案する。

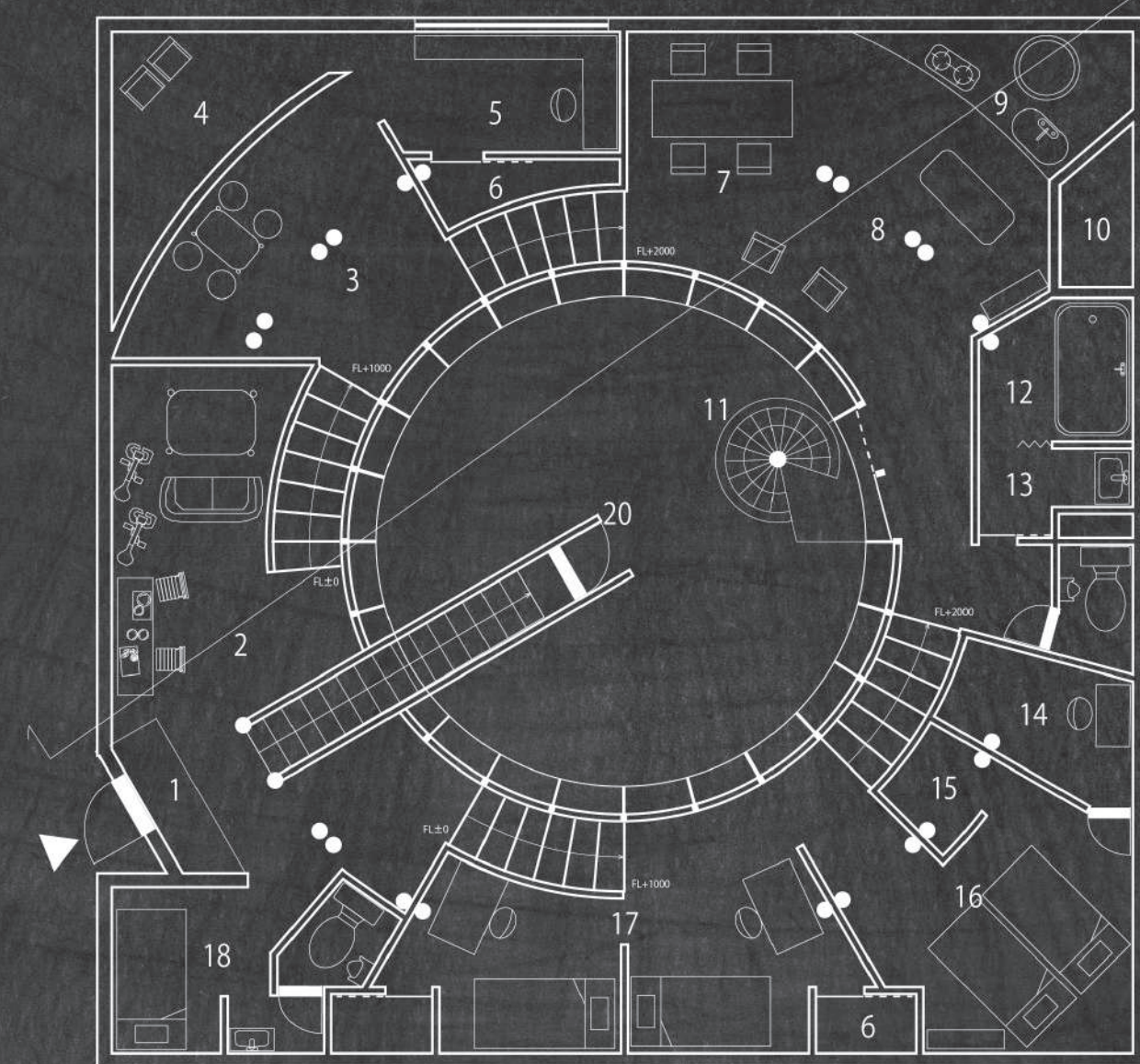
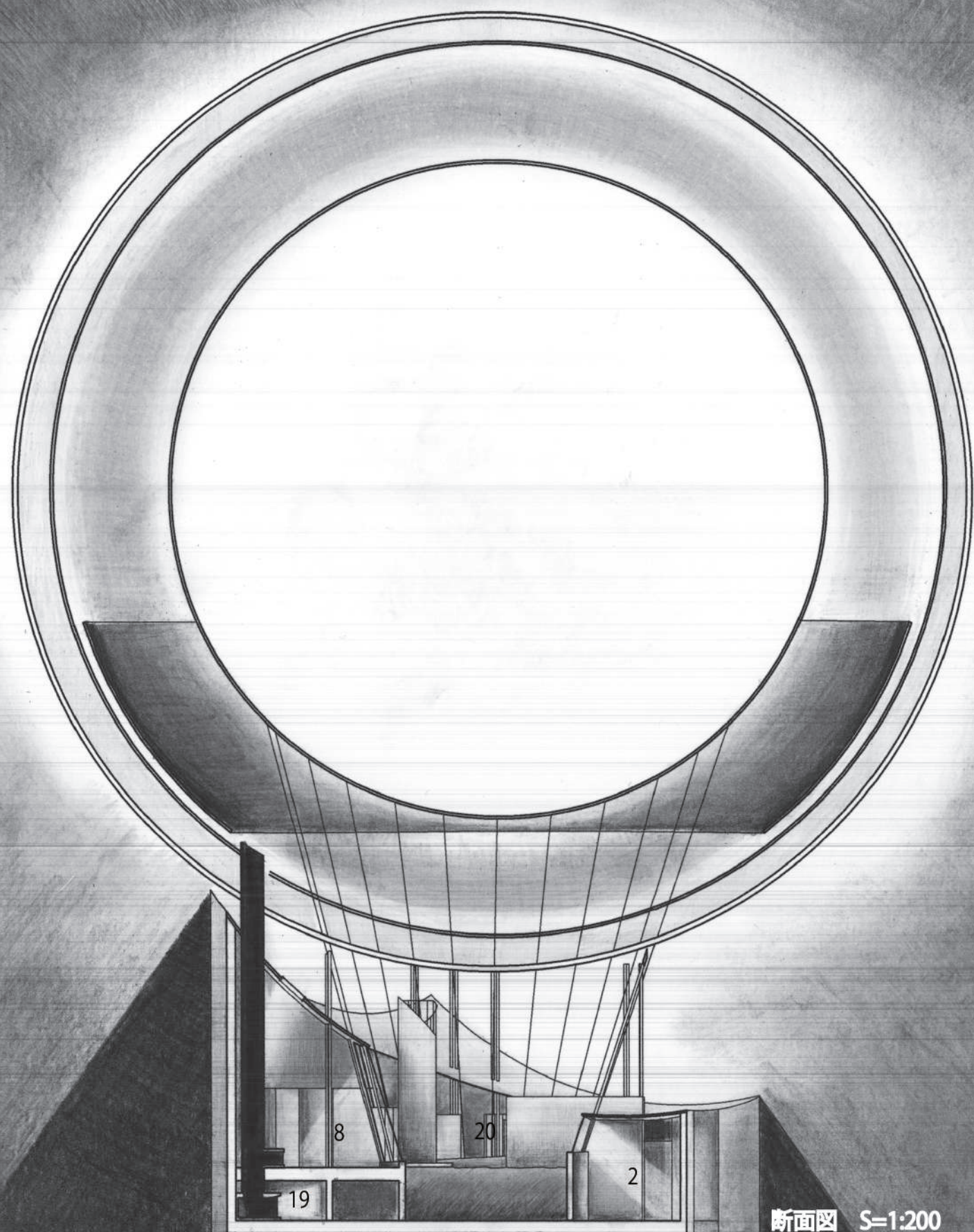
インフラ脱却=場所からの解放



正の走行性=光の希求



空への浮遊



- 1. 玄関
- 2. 作業場
- 3. リビング
- 4. 月見室
- 5. 作業室(母)
- 6. クローゼット
- 7. ダイニング
- 8. キッチン
- 9. 釜戸
- 10. 貯水槽
- 11. 螺旋塔
- 12. 浴室
- 13. 脱衣所
- 14. 書斎
- 15. 化粧室
- 16. 寝室
- 17. 子ども部屋
- 18. ゲストルーム
- 19. 燃料室
- 20. 中庭

浮遊の仕組み

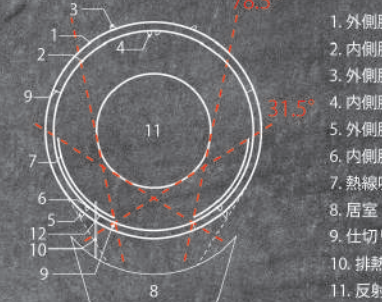
浮遊方法

この熱気球は、バルーンが二重の膜で構成されている。膜の上部を透明または半透明膜、膜の下部を熱線吸収や反射鏡として、温室効果によってバルーン内気体を加熱して浮上する。

また、日常生活で排出される熱や水蒸気をバルーン内に運ぶ装置を設置する。水蒸気は乾燥空気の6割程度の重さなので浮力増大効果があり、排出される熱と水蒸気は太陽熱が得られない夜間に利用する。

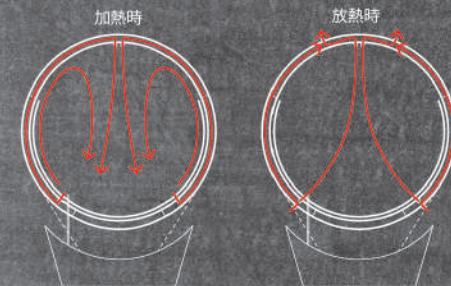
膜の上部と下部に弁を取り付けて内側気体の対流を制御することによって浮力を調節することができる。対流を活発にして内部膜に内側空間の温度分布を均質化することで大きな浮力が得られる。

仕組み



- 1. 外側膜
- 2. 内側膜
- 3. 外側膜上部空気弁
- 4. 内側膜上部空気弁
- 5. 外側膜下部空気弁
- 6. 内側膜下部空気弁
- 7. 熱線吸収膜
- 8. 居室
- 9. 仕切り膜
- 10. 排熱・水蒸気管
- 11. 反射球
- 12. 反射鏡

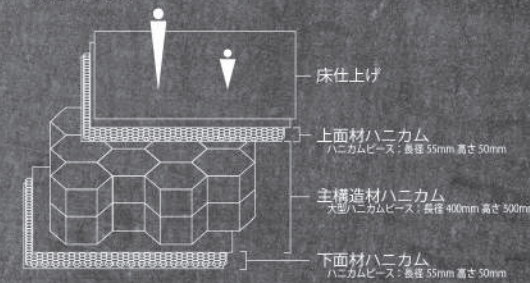
空気の流れ



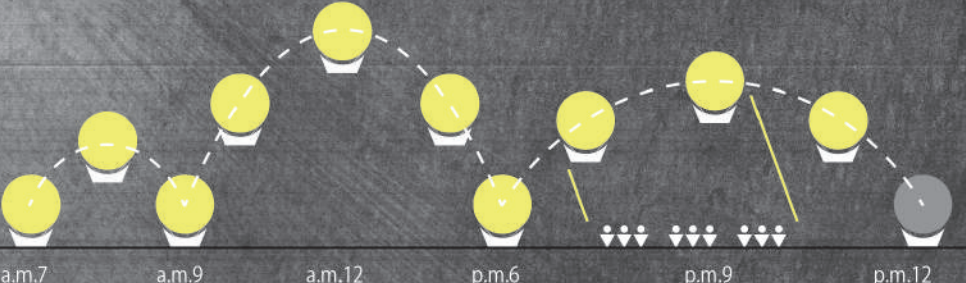
構成素材

建物本体の構造体となるカーボンナノチューブは、炭素繊維のナノ材料である。超軽量、高強度、高剛性などの特徴を持ち、空中に浮かぶ建築には最も適している。ハニカム形状をベースとした構造にした。このため、住宅の総重量を10分の1に削減することができる。

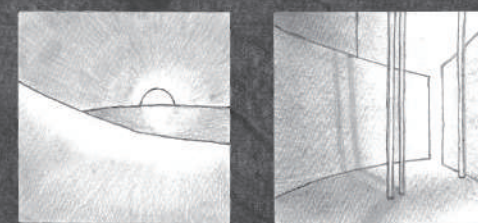
ハニカムスラブ



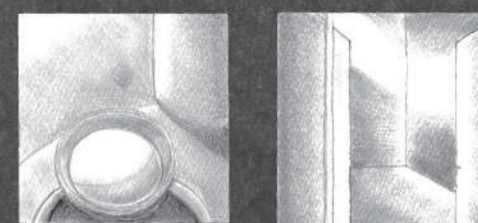
生活スタイル



トッライトから白い光が差し込む。その光の色や質で太陽光だとわかる。朝である。螺旋階段を登り、日光を浴びる。今日はちょうどリビングが南に向いている。



リビングの湾曲した壁に光が当たっている。強く短い光だ。昼である。キッチンへ向かい、昼食を食べる。



おちよこのふちが赤く光っている。包み込むようなやさしい光だ。夕である。庭のすずきを眺め、物思いにふける。

トッライトから黄色い光が差し込む。月の光だとわかる。夜である。光の動きを追いながら静かに目を閉じた。

ここには夫婦とその子どもたち2人が住まう。典型的な核家族である。

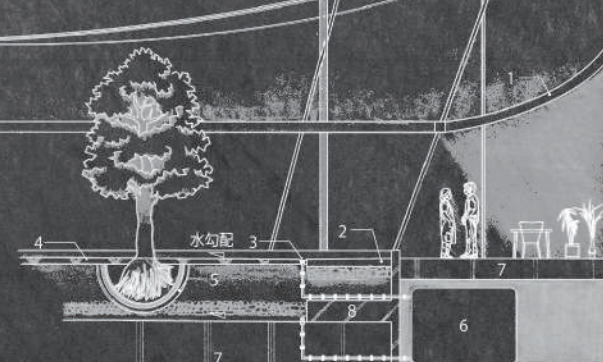
この家族は定住しない。そのため、ご近所付き合いや学校のような定まったコミュニティに属さない。

あるときはそこにいて、またなくなる。

そこにいた人と共に暮らし、また離れてゆく。

そうして自らで選び取る暮らしは、古くて新しいライフスタイルとなる。

平面図 S=1:100



- 1. メッキ鋼板
- 2. ウッドデッキ
- 3. ドレン配管
- 4. 改良土
- 5. 防水シート
- 6. 貯水槽
- 7. ハニカムスラブ
- 8. コンクリート

